

文部科学省 令和3年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究（地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進）

～山元こぐまサロンを活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト～

やまもと こぐまサロン



©牧 稔・日下真由美

成果報告書

実施主体
実施期間

山元町 特定非営利活動法人ポラリス
令和3年6月～令和4年2月

目次



3	こぐまサロン プログラム
4	町の人と学ぼう（全8回）
	第1回 知って役立つ「山元町障害者計画」
5	第2回 「防犯」について、おまわりさんに学ぼう
6	第3回 山元で働くインドのお兄さんと話そう
7	第4回 ハーブのちからでリフレッシュ
8	第5回 働くための心と体の準備
9	第6回 デジタル紙芝居「大條家ゆかりのお茶室物語」
10	第7回 うたで学ぼう 愛と平和のクリスマス
11	第8回 ライフストーリーを話そう・聴こう
12	ゆるっと哲学～地球のこと（全4回）
14	みんなはどうしてる？（全3回）
16	ICT体験倶楽部
17	保護者カフェ
18	こぐまサロン 成果報告会
21	こぐまサロン 量的・質的 評価
	参加状況／アンケート結果
22	参加した皆様のご意見（アンケートより）
23	こぐまサロンが生んだ価値
	その1. 当事者性を探求する
24	その2. 学びのレディネスを育む
25	その3. 学びの場と協力者を増やす
26	その4. ユニバーサルな学びを創る
27	その5. 家族の変容を伴走する
28	その6. 学び、そして共生社会を共創する
29	連携協議会&ワーキンググループ
31	「目指すは、共に学び合える地域づくり」
	アドバイザー 東北福祉大学 准教授 森明人
32	こぐまサロンへの道のり
	特定非営利活動法人ポラリス 代表理事 田口ひろみ
35	おわりに / 団体紹介

こぐまサロン プログラム

NPO・町・地域がつながって、宮城県山元町オリジナルの障害者の生涯学習プログラムを一緒に作ります。

福祉
×
学びの力

学び続けることの
できるまち

しなやかで
やさしい文化のある
まちづくり

プログラム1

まちの人と学ぼう

地域の様々な方々を先生にお迎えし、障害のある人もない人も共に学べる場を作ります。

- 第1回 オリエンテーション
知って役立つ「山元町障害者計画」(6月17日)
協力：山元町保健福祉課
- 第2回 防犯についておまわりさんに学ぼう (7月8日)
協力：国理津警察署
- 第3回 山元で働くインドのお兄さんと話そう (8月12日)
協力：M-GRA シンさん&シャクティさん
- 第4回 ハーブのちからでリフレッシュ (9月9日)
講師：エルフの森 岩佐和子さん
- 第5回 働くための心と体の準備 (10月14日)
講師：フレスコ㈱人事部教育部長 毛利起也さん
- 第6回 デジタル紙芝居「大塚家ゆかりのお茶室ものがたり」
講師：山元いい茶組 清水ますみさん (11月11日)
- 第7回 うたっておどってクリスマス (12月9日)
協力：どらごえサークル
- 第8回 ライフストーリーを話そう・聴こう (1月13日)
協力：ボラリス「こら・ふく」アトリエの会

全8回
午前の部 (10:00~11:30)
3階 会議室5 (定員45名)

プログラム2

ゆるっと哲学 〜地球のとん

ロバのいる古本屋店主と一緒に、地球規模で考えあってゆるっと 自由に哲学してみよう。

- 第1回 「気候変動」について考える (6月17日)
- 第2回 「平和・核兵器」について考える (8月12日)
- 第3回 「ジェンダー平等」を実現しよう (10月14日)
- 第4回 「食料問題」について考える (12月9日)

全4回(偶数月)
午後の部 (13:00~14:30)
3階 会議室5 (定員45名)

プログラム4

みんなはどうしてる?

この頃になっていることについて、仲間と一緒に話して、生活に役立てよう。

- 第1回 お金の使い方、どうしてる? (7月8日)
- 第2回 休みの日の過ごし方
〜好きな歌きながらカフェタイム (9月9日)
- 第3回 友達つきあいのこと (11月11日)
- 第4回 異性とのお付き合いのこと (1月13日)

全4回(奇数月)
午後の部 (13:00~14:30)
3階 会議室5 (定員45名)

プログラム3

ICT体験倶楽部

スマートフォンやタブレットを使って「やまもこぐまサロン」の活動を写真や動画で記録・編集する方法を学ぶワークショップ。完成したら、成果報告会で発表しよう。

講師：デザイン総合研究所 田所優希さん
協力：山元町地域活動支援センターやすらぎ スタッフ

全8回
午前の部 (10:00~11:30)
午後の部 (13:00~14:30)

プログラム5

保護者カフェ

こどもの話を聴く力をアップ。親同士でお話しましょう。

協力：山元町保健ボランティア 藤本淑郎さん、北島すず子さん
山元町地域活動支援センターやすらぎ スタッフ

全8回
午後の部 (13:00~14:30)
3階リハーサル室 (定員15名)

成果報告会

主な内容：
●ICT体験倶楽部による「やまもこぐまサロン」の活動報告
●パネルディスカッション (当事者・保護者・講師・地域・行政・他)

アドバイザー：東北福祉大学 総合マネジメント学部 産業福祉マネジメント学科 准教授 森明人 先生

令和4年
2月10日(木)
10:30~12:00
ひだまりホール
文化研修ホール
定員：110名

「令和3年度山元こぐまサロン」チラシ

まちの人と学ぼう

全8回

地域の人と一緒に
楽しく学ぼう



©斎藤秀美



オリエンテーション



共に学び、生きる共生社会へ
「学び」をたのしく

「やまもと こぐまサロン」って？

コーディネーター
田口 ひろみ (ボラリス)

しょうがいがかくしゅう
「生涯学習」とは

じんせい とお まな つづ
人生を通して学び続けること。

学校を卒業してからも、
障害のある人もない人も、
新しいことや、自分の好きなことを
共に学びつづけることができるように。

山元こぐまサロンでは

NPO・町・地域がつながって、山元町オリジナルの
学びの場を創ります。

学び続けることができる山元町をみんなで創っていきま
しょう

しなやかで、やさしい、文化のある町で暮らしている
ように。



ちょっとむずかしいけど、知るときっと役立つ
「第3期山元町障害者計画」をガイドする動画をみんなで作成しました

第1回：知って役立つ「山元町障害者計画」

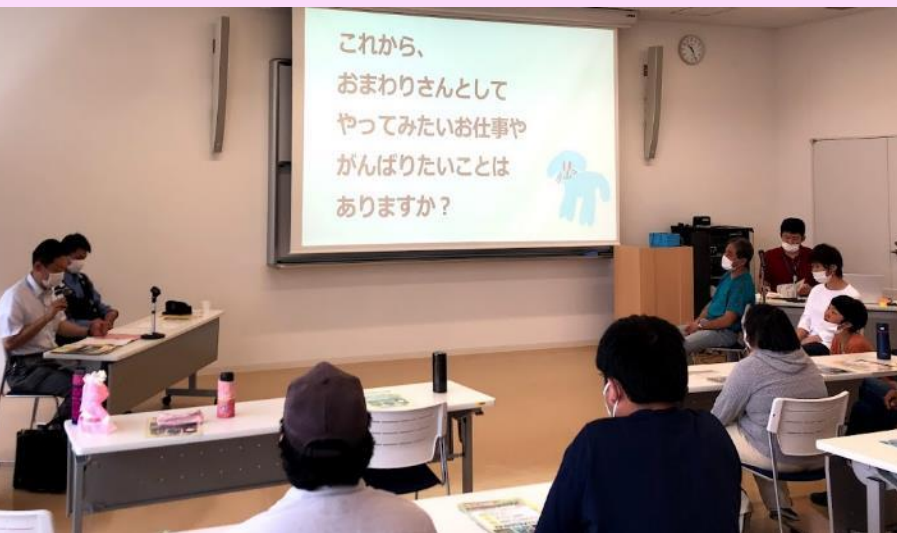
開催日 令和3年6月17日 (木)
講師 山元町保健福祉課



役場としては、福祉分野の情報をなかなか発信することができず、伝えることの難しさを感じていました。今回は対象者が幅広いので、どこにスポットを当てたら良いか難しかったけれど、動画で話のながれ、筋道を立ててもらえたので助かりました。当事者が参加している感もありました。

今まで町として、障害者計画を町民に周知して、当事者のニーズを吸い上げる場がありませんでした。今後、サロンがそのような場になれば、今後のプログラムに、計画をリンクしていくこともできるのではと思います。

山元町保健福祉課 嶋原さん



これから、
おまわりさんとして
やってみたいお仕事や
がんばりたいことは
ありますか？

勧誘を避ける
には、きっぱりと断ること
です。



怪しい電話が来たら「#9110」だね。



「ながら歩き（スマホ、イヤフォンなど）は危ないね。貴重品は肌身離さず。」



「好きな動物とか色とかを聞いて
身近に感じられて、このお二人に
なら相談できそうかなと思いました。」

昼夜逆転して身体を壊したと聞いた時、警察の人も身体を壊すんだなあ、やっぱりみんな大変だなあと思いました。

おまわりさんは犬が好きなんだって



お巡りさんが自分と同じ歳で、
巡査部長ってすごいなと思いました。
大変な仕事なのに17年もやってるなんてすごいな
と思いました。

詐欺に騙されないように、ネットやスマホの安全な使い方をもっと知りたいです。いろいろな犯罪がありどれが正しいか分かりづらいな。

第2回：「防犯」について、おまわりさんに学ぼう

開催日 令和3年7月8日（木）

講師 宮城県亘理警察署 生活安全課 宮城県巡査部長 中塚浩章さん
山下駐在所巡査 太田芳希さん

私自身、障害者の方に防犯講話をすることが初めての試みであり、そのような機会をいただいて大変感謝しております。良い経験となりました。障害者の方が、これほどまでに防犯や警察に関心を寄せているとは思いませんでした。

現在、サイバー犯罪や特殊詐欺などの事件が蔓延しており、いかに犯罪などの危険から自分の身を守る術を身に付けないといけません。警察が国民全員を守ってあげたいところですが、どうしても守り切れないところがあります。「自分の身は自分で守る」という気構えを持って、今後も防犯に関心をもって勉強してもらいたいと思います。

犯罪を生まない言葉があります。「自分がされて嫌だと思うことはやらない」という言葉です。

この言葉を守れば、世の中から犯罪はなくなると思います。

この言葉を心に、これからも楽しい安心な日々をお過ごしください。またこのような機会があれば、ぜひ、講話をさせていただきたいと思っております。

宮城県亘理警察署 生活安全課主任 中塚 裕章さん



4月よりスタッフとなり、身近に、毎月違ったテーマで、生涯学習を学べる環境があることに感動した。障害あるなしに関わらず、1つのテーマについて時間をかけ考える場所があるということはとても貴重で有意義な時間となっているように感じる。メンバーにとっても回数を重ねる毎に「学び」「考え」「言葉にする」ことが自然に行えるようになっていくと感じ、スタッフとして携われることをうれしく思います。

ポラリス スタッフ 森里美



インドのレシピなど、印刷して配っても良かったかな。ダンスのテンポが早くて、みんなには難しかったかな。ゆっくり、一つずつのポーズをもっと丁寧に教えてあげたかったな。
(シンさん)

異文化に触れとても楽しかった。3歳から教育を始め数学に力を入れていることがわかった。
(一般参加者)



ナンの作り方、わかりますか？

第3回：山元で働くインドのお兄さんと話そう

開催日 令和3年8月12日(木)
講師 株式会社GRA 橋元洋平さん、シンさん、シャクティさん

日本に来て大変な事がありますか？
人種差別などございましたか？

日本に来て、びっくりした事ありますか？

どうやって早く日本語を覚えたんですか？



インドの暮らしについて教えてください

GRAでどんなお仕事してるんですか？

日本は好きですか？
どんなところが良いですか？



ヨガをしてみよう

ガンジス川の沐浴はみんながするのですか？

インドにへびつかいはいいますか？

日本のカレーとインドのカレーはどちらが好きですか？

感想
 *直接自分から質問できて、シンさんやシャクティさんから直接その場で答えてもらってとてもうれしかったし楽しかった。
 *インドのダンスも楽しかったけれど、少し早くてたいへんだった。
 *インドの家族での暮らし方がいいなと思った。
 *初対面のインドの方に質問して緊張したけれど少し楽しかった。
 *日本の文化にも興味を持ってくれてうれしかった。私もインドの文化にとっても興味を持てた。
 *シンさんとシャクティさんが一生懸命教えてくれてうれしかった。
 *インドに帰っても農業の事がんばってください。

牛を食べてはいけない人
豚を食べてはいけない人
お互いどう調整していますか？

ハーブの名前と効能を学ぶ @風の章ガーデン

「ペパーミントは地中海地方にあるんだと知りました。
レモングラスのハーブティ美味しかったです」

「もっと体にいいハーブなどがあるなら教えてほしい」



ラベンダーサシェをつくる

「ラベンダーのニオイ袋を作ることができて楽しかったです。」

「袋に綿を詰めたり、リボンを結ぶのがちょっと大変だったです」



第4回：ハーブのちからでリフレッシュ

開催日 ①ハーブの名前と効能を学ぶ 令和3年9月7日(火) 風の章ガーデン
②ラベンダーサシェを作ろう 令和4年10月7日(木) ポラリス
講師 エルフの森ハーブガーデン 岩佐和子さん

ポラリスにてラベンダーの匂い袋作りとハーブティを楽しむワークショップを実施しました。安眠効果のあるラベンダーは、ドライにして袋に詰めてリボンで結びます。小さい袋だったので皆さん結ぶのに苦労していたようですね。またすっきりさわやかなフレッシュハーブティは、心と体の疲れを癒してくれます。メンバーさん達とは風の章ガーデンで草取りや植え付け等の作業をして、ハーブと触れ合っています。土と草と遊びその自然の恵みを暮らしの中に取り入れることができれば素敵ですよ。

エルフの森 ハーブコーディネーター 岩佐和子さん



ひだまりホールがコロナ緊急事態宣言で臨時休館となり、いつもの会場が使えませんでした。当事者主体で可能なかたちで学べる機会を作りました。

屋外やポラリスの室内を使って小規模ではありますが、みんなで話し合い試行錯誤しながら取り組むという、これまで進めた3回とは違った学びの場となりました。

”持続可能な障害者の生涯学習の場を作っていく”という基本的な目標をもとに、様々な社会情勢にあるときも、できる範囲で学び続けるということを目指し企画していくことが大切と気づくことができました。(事務局)

メモを取りながら
真剣に聴いてくれて
ありがとう！

スーパーの仕事は
どんな仕事？



(感想)
「働くことに希望が持てるかな。」
「会社から社員にお誕生日プレゼントあるんだ！」
「お店の太陽光パネルで自家発電に備えるんだね。」
「何歳でも働けるんだね。」
「世の中一人でできる仕事はないんですね。」
「探偵の話、もっと聞きたかった。」
「嫌な人と無理に仲良くしないでいいんだね。」



相談支援専門員からは就労訓練の
種類と山元町での障害者雇用の現
状をききました。

第5回：働くための心と体の準備

開催日 令和3年10月14日(木)

講師 フレスコ株式会社 人事教育部次長 毛利起也さん

今回、初めて参加させていただき、色々なことに感銘を受け、私自身とても勉強になりました。参加人数の多さ、前向きな姿勢、全員でサロンに取り組み・作り上げるという意識、こまめにメモを取る姿勢・・・そして一番感銘を受けたのは「自ら発言・発信する」という姿勢です。

長年、障害者雇用に携わってきた中で、人の話を聞く、話を受け入れること（インプット）が得意な方は多いのですが、自分から発言・発信する（アウトプット）することが苦手な方が多いと感じていました。しかし、参加者の皆様は、自分達で司会・進行し、思ったことを発言したり、とても素晴らしかったです。

困難もあったと思いますが、様々な創意工夫をしながら取り組みをされてきた結果が皆様の意識を前向きに変えていったのだと感銘を受けました。今後も継続的かつ発展的な取り組みを期待しつつ、山元町民の方々が障害の有無にかかわらず共に学び・成長していけることを期待しております。

フレスコ株式会社 人事教育部次長 毛利 起也さん

3.ポラリスメンバーの



「こんな会社で
はたらきたーい！！」

(こんな会社あったらいいな)



知ってほしい ・ 学んでほしい

- ・ 茶室の歴史
- ・ 山元町の人々が大切にしてきた
- ・ 山元町の文化財（たから）であること



質問2 お殿様は絵が上手

17代大條孫三郎（伊達宗亮）の書画



質問3 仙台藩での活躍

15代
(大條道直)

伊達家の跡継ぎの血筋を守るために、江戸幕府に
談判して認めさせた → ごほうび「茶室」

17代
(大條孫三郎/
伊達宗亮)

- 幕末と明治初期に活躍（戊辰戦争と後始末）
1. 仙台藩主（伊達慶邦）の江戸、京都行きに常に同行
 2. 朝廷に建白書（会津藩討伐命令に疑問）提出の役目。蒸気船「宮城丸」で京都へ
 3. 新政府に降伏後、藩主と共に上京。伊達家に寛大な措置を嘆願、仙台藩伊達家の家名存続
- ごほうび「伊達」姓

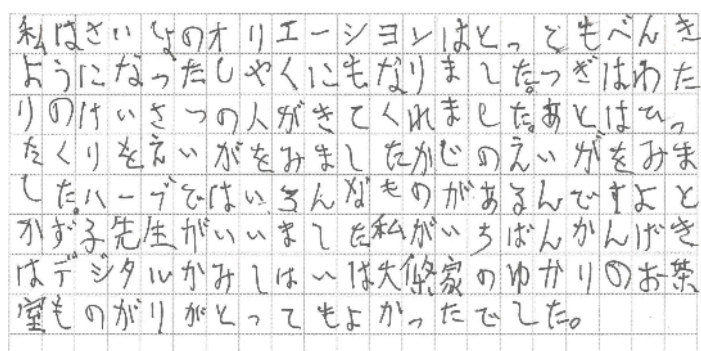


茶の湯体験



第6回：デジタル紙芝居「大條家ゆかりのお茶室物語」

開催日 令和3年11月11日（木）
 講師 山元いっ茶組 代表 清水ますみさん
 協力 北島すぢ子さん（茶道の先生）
 ポラリス保護者（茶の湯体験コーナー）



ポラリス 門間美佐子さん



スタッフの役割分担がスムーズ。用具・備品類の整備も整っていて、とてもやりやすい。
 講師としてとても安心感もって参加できた。保護者やボランティアの自発的な（頼まれ仕事でない）協力、臨機応変の現場発揮力もすばらしい。
 ポラリスがこうした体験・機会を積み重ねてきたことと、日常の活動への理解浸透、指導の賜物だと感じる。メンバー達も健常者と互角に自然に交わって、一緒に学ぶ様子、考えや意見を堂々と言う姿も感動的である。
 今後も地道な積み重ねと、ぶれない基本的スタンスの保持を期待しています。

山元いっ茶組 代表 清水ますみさん



みんなで
「ハトおどり」を
して面白かった

戦争の悲しさ、愛
と平和の事がわ
かった



きよしこの夜



きよしこのよる 聖はひかり
すくいのみ子は まぶねの中に
ねむりたもう いとやすく

きよしこのよる み子の笑みに
めくのみよの あしたのひかり
かがやけり ほがらかに

久しぶりに歌を
歌ったり踊った
りしてすごく楽
しかった



赤鼻のトナカイ

真っ赤なお鼻の トナカイさんは
いつもみんなの わらいもの
でもその年のクリスマスの日
リントのおじさんは いいました

暗い夜道は ピカピカの
お鼻の鼻が 役に立つのさ

いつも遊んでいた トナカイさんは
今宵こそはと よろこびました



「どらごえのお話や歌など感動しました」
「紙飛行機を飛ばして楽しかった」
「山元町の歌を作ってすごいと思った」
「いろんな歌のことを知りました」

第7回：うたで学ぼう 愛と平和のクリスマス

開催日 令和3年12月9日（木）

講師 どらごえサークルのみなさん

協力 ポラリス「こう・ふく」アトリエの会（スライドイラスト、歌集制作）



このたび「こぐまサロン」にお招きいただきありがとうございました。当初私たちの発表が中心になるかと思いましたが、ポラリスさんと話し合いを進めながら作り上げることができた事は貴重な経験でした。皆さんが学んでこられたことと、どらごえが大切にしてきた「平和を守り育てる」ことが合致して進められた今回の企画は私たちも大変勉強になりました。今後も私たちの活動が「共に学び合える」場として協力させていただければ大変うれしいです。よろしくお願いいたします。

どらごえサークル 森光子さん





一歩一歩進んでいる素晴らしい!と思いました。あと戻りする事もあると思いますがほんとに素晴らしいと思います。
(参加者のメッセージ)



生きづらさを抱えて。

～あるアーティストのつづき～



ギター演奏
「禁じられた遊び」
すごくよかったです。

ポラリスに通い始める



ポラリスを教えてください、
環境の良さにびっくり!

(発表者によるイメージ画)

第8回：ライフストーリーを話そう・聴こう

開催日 令和4年1月13日(木)
協力 ポラリス「こう・ふく」アトリエの会
原田さん・桜井さん・小松さん



精神科というと、精神異常者が行く所で、危険な人がいっぱいいたり、精神を非常に病んでいて、怖い人が行く所だと思ってる人がいるかもしれないけれど、現代のストレスを軽減して、安心できる社会作りに役立てさせる場所なので、偏見をなくし、少しでも身におほ"え"がある人は、一度受診してみることをおすすめしたいと思います。
精神科がもっと身近に感じられる社会になればいいと思います。

原田

共感したこと(アンケートより)

- ・自分の息子も同じような症状があったりしていたので気持ちがよくわかりました。
- ・自分自身も同じ世代、同じ時代に同じように悩みつつ、自分の人生を歩んできた。理解し受け入れてくれる人がいると言う事は生きる力になるよね。
- ・昔と違って今は精神科といっても普通の病気の1つだと思います。
- ・ポラリスを休まないでください。
- ・何事も挑戦することがすばらしい!感激しました。
- ・自分がやれることを頑張ってください。
- ・絵、音楽など、好きなことがあると心を豊かにしてくれる。
- ・原田さんのお母様の話に涙が出ました。
- ・1人で病院に行ったり行動力が良かったと思いました。

ゆるっと哲学 ～地球のこと

全4回

講師 森の中の小さな古本屋
スローバックス
代表 佐藤浩昭さん

ロボのいる古本屋「スローバックス」の店長さんと一緒に、地球規模で考えあってゆるっと自由に哲学してみました。



障害のある方の卒業後の学びの場として「山元こぐまサロン」がとても意義深いものであると感じました。特に、障害のある方とない方が一緒に学べるプログラムを通して、互いに刺激し合って楽しい活動を作り上げている様子は、個人レベルではなく地域としてより豊かな社会を築くことにつながると思いました。これからも活動を続け、地域で共に豊かに生きる山元町にしてほしいと思います。学校としてもどのような形で協力ができるのか研究していきたいと思っています。

宮城県立山元支援学校 校長 鈴木尚先生

全4回にわたり、テーマごとに資料を作成し、絵本の選定など行いました。資料作成においては、ネットで調べたり、本を読んだりしたので、私自身学ぶことが多い1年でした。ジェンダー、戦争など難しいテーマが多い中、メンバーさんには、いつも素直な心と真剣な表情で私の拙い話を聴いていただきました。大変感謝申し上げます。理解しにくい部分もあったかと思いますが、なるべく、噛み砕いて、分かりやすくお話ししたつもりです。メンバーさんは、回を重ねるごとに、積極的に発言するようになり、話し合う力も高まったように感じます。自分自身を表現することで、自信を深めたり、安心感を得られたように感じました。世界が直面している様々な問題について、メンバーさんや地域の方々と楽しく、考え、話し合いが出来たことうれしく感じます。

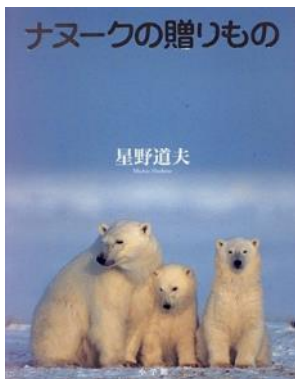
講師：森の中の小さな古本屋スローバックス店長 佐藤浩昭さん



スローバックスご夫妻

「むずかしいことをやさしく教えていただきました。」

「気候変動」について考える



「ナヌークの贈り物」
星野道夫 写真・文



地球のことを自分ごと
に「ゴミをへらさ
なくちゃ！」

「平和・核兵器」について考える



第五福竜丸 「ここが家だ」
絵 ペン・シャーン
構成・文 アーサー・ビナード



「マグロ」
画：ひでみさん

《「平和」ってどんなことだと思いますか。》

- ➔ 「本話を聞いている時が平和」 「争いがない世界 核兵器のない世界」 「戦争や差別のない世界が平和だと思います。」
- 「けんかは絶対しないこと。人を傷つけたりしない。人間はずかな所で暮らす。人間も動物も平等にする。だから戦争は嫌いだ。」
- 「一人一人が守られて自由で穏やかに過ごせる世の中になること。色は虹色。食べ物はマッシュマロ。」
- 「諍い（いさかい）のない穏やかな社会のことを平和と呼びます。」 「好きなだけ寝ることができること。」
- 「誰も傷つけあうことなく、お互いの幸せを願うこと。（自然が豊か）地球温暖化などが無い世の中。」

「ジェンダー平等」を実現しよう



絵本「ホオナニ、フラおどります」

ヘザー・ゲイル（著）、
ミカ・ソング（イラスト）
クウレイナニ橋本（翻訳）。



絵本「せかいいち
うつくしい ぼくの村」
作・絵 小林豊

3. ホウナニの成長やトランスジェンダーの生き方など、絵本の
に残ったことを教えてください。

自分らしさが成り立つような物語でした😊



男女平等を言われるようになってずいぶんたつのにまだまだ問題があるんだなあと感じました

「女性蔑視」がだめなら、女性による「男性蔑視」も当然だめだね、と思った。

質問シート 1

もしあなたがアフガニスタンの用水路近くに住んでいたら、どんな作物を作りますか。その理由も教えてください。



戦争があったために村がいっしょになくなってしまふのだから戦争はやっていけない事だと思った。

中村哲さんは土木工事で医師として診療所を開設し、治療（ハンセン病）を担い、国民の命を守っていた。立派な医師として活躍して、素晴らしい人として感じました。

みんなはどうしてる？

全3回

協力 宮城県立山元支援学校
進路指導部 菅原正弘先生

メンバーが最近気になっている「お金の使い方」「友達付き合い」「異性との付き合い」について、みんなはどうしてるか、話し合ってみました。

あんな面白いこと、学校ではできないんじゃないかな？
先生にまたファシリテーターをしてほしいな。
毎月サロンで、先生の話の聞けたらいいなー。
(メンバー)

テーマ①

お金の使い方
どうしてる？

開催日 令和3年7月8日(木)



菅原先生とメンバーの企画ミーティング

お金の使い方

あなたはどのタイプ？



キリギリス ・ アリ ・ チョウチョ

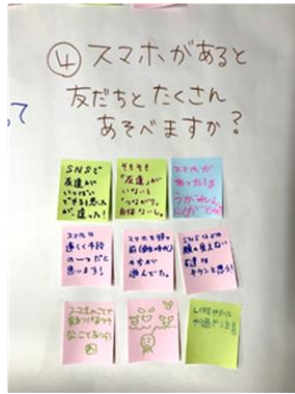
テーマ②

みんなはどうしてるんでしょう？
ともだちづきあい

開催日 令和3年11月11日(木)



20代と70代の対話も楽しい



来年、合コンpart2
やってほしいな

・お話できて良かった
・交流できてよかった
・質問タイムが楽しかった

テーマ③

友だちについて発表

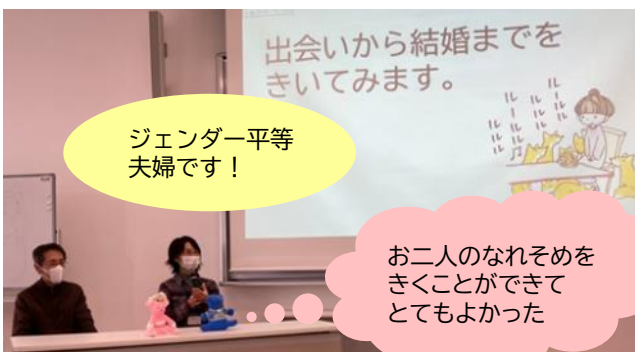
「みんなはどうしてる？」
異性とのつきあい方
～合コンをやってみよう～

開催日 令和4年1月13日(木)

協力 スローバックス
佐藤ご夫妻



合コンの様子



ジェンダー平等
夫婦です！

お二人のなれそめを
きくことができ
とてもよかった



工房地球村
家政鈴奈さん



町内の二つの就労B事業所（ポラリス・工房地球村）のメンバーたちが、一緒に「友だちづきあい」について話し合いながら、楽しく交流することができました。

「アレ!?私もいつの間にかサロンのメンバーになっていた。」これが1番の感想です。さすが、ポラリスの実行力、巻き込む力。山元こぐまサロンに参加して感じた事は次の2つです。

1. 学びの場が広がっている。

当事者に限らず、周囲の人(保護者、福祉事業所)、さらにその周囲の人(民生委員、医療大学や学校、行政、警察、地元サークル、企業)が参加している。また、福祉事業所の枠を超えた参加がある。

2. 学びの間口が広い。

講師を招いての学び(歌、ダンス、防犯、インド、山元のお茶室)、良質な絵本による哲学(気候変動、ジェンダーなどの毎回様々なテーマ)、仲間と気になることを学ぶ。ICTや保護者カフェ。

もっとグルングルン巻き込まれてみたいな!

宮城県立山元支援学校 進路指導部 菅原正弘先生



「みんなはどうしてる?」企画に参加してを振り返って、こんな感じでマンガを描かせて頂きました。

いつもポラリスに参加してはいますが、なかなかメンバー同士でも知らない一面が伺い知れて、貴重な時間でした。人間だからいいところやわるいところ、個性的なところ、いっぱいあると思いました。そんなところがこぐまサロンで色々発見できて楽しかったです。参加して下さった皆さん本当にありがとうございました。ではまた会う日まで。原田雅之(ポラリスメンバー)

ICT体験倶楽部

講師 株式会社夢デザイン総合研究所
田所信幸さん



「山元町障害者計画」のガイドとして動画に出演



町の人と学ぼう「ハーブの力でリフレッシュ」の様子を動画にしてYouTubeで配信



10月のサロンの動画づくりのため撮影にチャレンジ



ICT体験倶楽部×船岡支援学校
～医療ケアの必要な方の学びの場を
これからどう支援するか～

ICT(動画配信)を活用した社会発信の体験学習

スマートフォンやタブレットを使って「山元こぐまサロン」の活動を写真や動画で記録・編集する方法を学ぶワークショップをしました。
サロンの様子を動画にして成果報告会で発表しました。



- 6月 「山元町障害者計画」を楽しく学ぶ当事者参加の動画づくり
- 7月 「お巡りさんに助けてもらった」当事者の体験紹介動画
- 8月 「インドのお兄さんに聞いてみよう」サロン進行スライド
- 9月 「ハーブの力でリフレッシュ」ワークショップの写真・動画撮影
- 10月 就労について、スライドを用いて講師へ質問
- 11月 ICT機器を使い、動画(教材)作成
- 12月 合唱プログラム(スライド)に合うイラストを描く
- 1月 「ライフストーリー」のスライド作成とPCを使った発表
- 2月 成果報告会でこれまで撮影した写真・動画を編集し発表

◆桜井さん(動画出演者)

最初は緊張しました。隣に引地さんがいてくれましたが、人前で自分の動画が映るのは恥ずかしかったです。終わってみたら皆さんだいぶ勉強になったようで自分が苦労した甲斐があったと思いました。

自分は記憶がなくなるところがハンディとしてありますが、「鳴原さん」という名前は今のところ覚えてました。過ぎちゃうと忘れちゃうけど忘れないようにメモに書いておきます。

皆さんも勉強になったら私も満足です。

◆引地さん(ピンクマ：事務局)

終了後講師役を務められた保健福祉課の鳴原さんが何度も「この動画に助けられた、動画がなかったらどうなっていたかわからない」とお話されていたことが印象的でした。

今回のテーマは難しかったかもしれませんが、メンバーと一緒に、動画作りを通して役場と協働できたことは、大きな第1歩になったと思います。

楽しく面白く分かりやすく皆を巻き込んで！これからも動画作りに関わることができたら嬉しいです。



登場したピンクマ(最年少メンバー)と最年長メンバーの会話がとっても面白かったです。

保護者カフェ

全8回

保護者のみなさんが町の相談支援専門員、傾聴ボランティアと一緒にリフレッシュ&傾聴し合う時間を持ちました。

協力 山元傾聴ボランティア
ポラリス保護者の会



皆さんの真剣で前向きな取り組み、また皆さんが協力し仲良く課題に取り組む姿勢に共感と感動を覚えました。また皆さんを支えて共に頑張っておられるご家族の皆さんと触れ合い、経験したことのない一面を見聞し、教えられることが多々ありました。学びの場を提供していただきありがとうございます。

月に1度の会合で、皆さんの日々の苦労や喜び、楽しい生活の一部を感じることができ、話を傾聴することを楽しみにしていました。傾聴が少しでもお役に立ったのであれば幸いです。今後傾聴ボランティアを続けていく上で、多くのヒントを得られたと思います。

山元傾聴ボランティアの会 会長 藤本淑郎さん



保護者カフェは、月1回、皆さんと会えて話すことを楽しみにしていました。傾聴ボランティアさんとまずみんなで歌からスタートし和やかにお話ができました。福祉の話題はなかなか難しく、進行してくださる相談支援専門員さんに噛み砕いて話してもらえました。新しい保護者の参加があり、喜びとともに、その方の勇気にエールを送ります。これからもよろしくお願いします。

保護者 加納てる子さん

毎月いろいろな方を先生にお迎えしてお話を伺うことができ、子供も親も楽しく「なるほどな」と感心したり、インドの方に話を聴いたり、フレスコの方には仕事の取り組み方や障害のある人の支援について話を聞くことができ、勉強になりました。地域の民生委員の方も参加され交流することができ理解していただきよかったです。これからも地域の方々との交流する機会が増えて学ぶことが多くなれば良いと思います。

保護者 永谷展子さん



こぐまサロン 成果報告会

令和4年2月10日（木） 10：00～12：00

ひだまりホール 3階 会議室5 50名

1. 「動画でプレイバック！ 山元こぐまサロン名場面集」

夢デザイン総合研究所 田所信幸さん とICT体験倶楽部メンバーズ



講師の田所さんから総評・・・参加メンバーが感想の発表をしました・・・



・・・名場面集はこちらからどうぞ・・・➡



2. パネルディスカッション



コーディネーター
東北福祉大学
准教授 森明人先生



(発表1) 町の新たな学びの場「山元こぐまサロン」に期待すること
山元町生涯学習課 派遣社会教育主事 三浦彰文先生

「町の新たな学び場・こぐまサロン」に期待することとしては、やはり、「障害のある方が本当に学びたいという事やその学びたい気持ちに寄り添っていくことができる」ことが大きなポイントであると感じています。障害のある方たちは、「いっしょに学ぶ仲間が欲しい」「周りの人の理解がないのではないか」と心配する人も多いと聞きます。「こぐまサロン」ではそういった気持ちをサポートしつつ、障害のない人も一緒に学ぶ機会を通して、障害のある人も、障害のない人も、お互いにお互いの理解を深めていくことができるのは大変素晴らしいことだなと感じています。

さらに、「こぐまサロン」は、「新たなつながり」が生まれる取り組みであると考えます。山元町に「教育振興基本計画」という町の学校の教育や生涯教育をどのように進めていくかを定めた決まりがあります。そちらを来年度から新しいものに変えるのですが、その中に、「年齢や性別、障害の有無にかかわらず、学んだことをもとに、地域で活躍できる」ことを目指していくと決めています。この「こぐまサロン」で学んだことを、「新たなつながり」でできた様々な機会の中で、みんなが発表したり、活躍したりすることができるのではないかと考えています。そんな可能性につながる素晴らしい取り組みなので、山元町としても、今後も連携しながら進めていきたいと考えています。



(発表2) 「町の人と学ぼう」に参加して
どらごえサークル 萱場裕子さん



(発表3) 「ゆるっと哲学～地球のこと」に込めたもの
スローバックス 佐藤浩昭さん



(発表4) 「みんなはどうしてる？」の企画に参加して
ポラリス「こう・ふく」アトリエの会 原田雅之さん



(発表5) 保護者として感じたこと、そしてこれからのこと
加納てる子さん

「保護者カフェ」では、ポラリスとやすらぎの相談支援専門員さんが進行し、傾聴ボランティアさんの協力もあり、歌、体操でリフレッシュする時間も作りました。その後にグループごとに話し合ったり、障害福祉に関する制度やサービスの話を相談支援専門員の方からいろいろ聞いたことも良かったです。民生委員さんや東北福祉大学の森先生も参加してくださって、はじめ緊張しましたが、いろいろお話を聞いて下さって、ほっとしました。やはり、毎月お母さんたちに会えることが、とても楽しみでした。

また、「ゆるっと哲学～地球のこと」と「みんなはどうしてる？」も楽しそうで良い雰囲気に見えました。私たち保護者も興味があったので一緒に参加したかったな、と残念がる声が多数ありました。そこがちょっと心残りでした。保護者カフェと同時進行だったので、来年は別々の時間に開催してもらえると私たちも哲学なども参加できると期待しています。どうしても、子供がポラリスを利用している保護者の割合が多くなってしまいますが、それでも新たに2名の若いお母さんたちも参加してくださいました。はじめは緊張されていた様子でしたが、子供のために、と参加して下さったお母さん、素晴らしい、応援したい！と思いました。回を重ねながら仲良くなれてうれしかったです。

是非、来年度は、今年を振り返りながら、場所や内容などをもっと気軽に緩やかになるように考えていただき、保護者同士の話し合いの場を続けていけたらいいと思います。



(発表6) 「保護者カフェ」を担当して
山元町地域活動支援センターやすらぎ
相談支援専門員 遠藤ひとみさん



みんなで振り返り



こぐまサロン事務局より



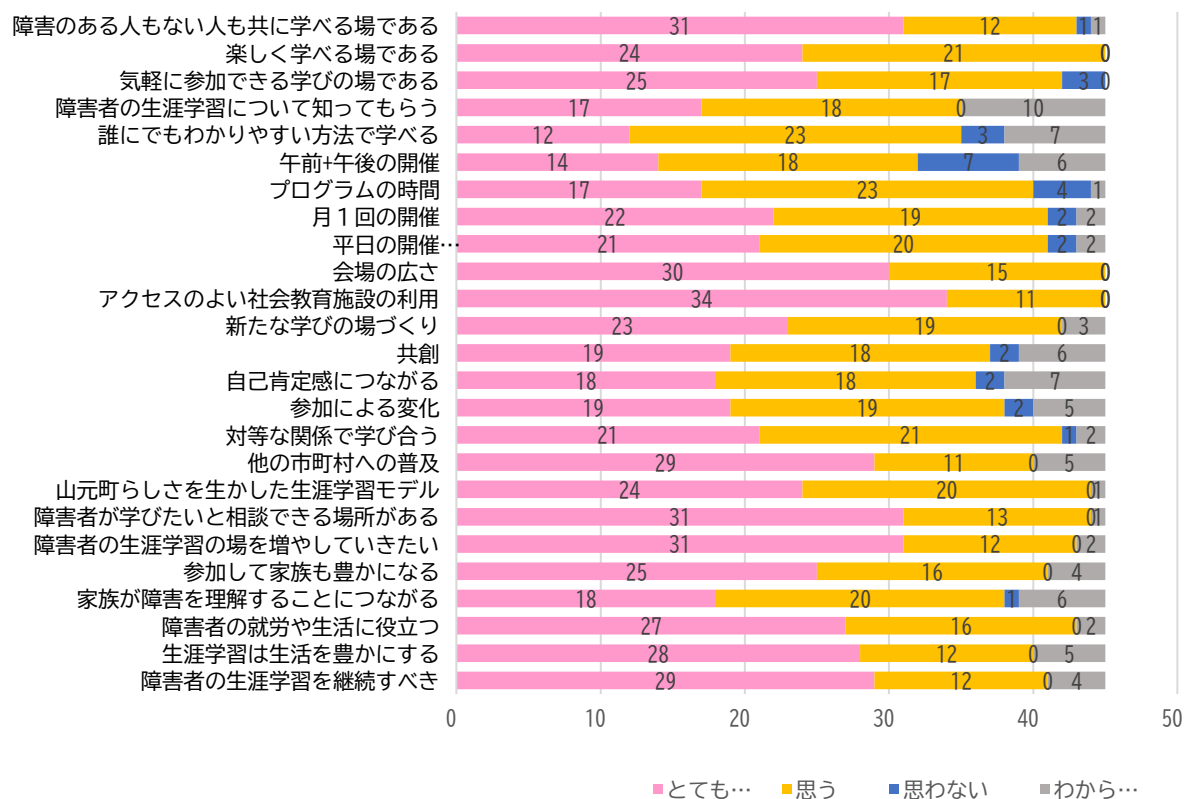
参加状況

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	成果報告会	合計
当事者	19	18	17	24	16	21	19	17	15	166
保護者	10	8	9	0	12	8	10	9	9	75
一般	11	5	12	3	13	20	14	9	9	96
学生	0	0	0	0	1	0	1	1	0	3
視察者	0	0	7	0	7	0	0	1	0	15
講師	8	6	6	2	8	6	18	6	5	65
行政	1	1	2	0	1	0	2	0	2	9
スタッフ	10	10	10	8	10	12	12	12	10	94
	59	48	63	37	68	67	76	55	50	523

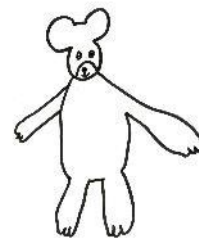
のべ523名

アンケート結果

回答者45名（当事者25・地域9・実施関係者10）



参加した皆様のご意見 (アンケートより)



©牧 稔・齋藤秀美・加納寛子

	サロンの意義	サロンの内容	サロンの進め方
参加者	<p>(当事者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山元こぐまサロンは良い所。 とても楽しかった。 自分は、障害のせいで物忘れが激しいのですが、サロンの開催が楽しみです。ではないです。 素晴らしいプログラムでした。 <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害を持った方の発表、気持ちを聴けて本人の考え、立場の理解につながるきっかけとなった。 もっといろんな方に参加いただけたらと思います。 <p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 気軽に参加できた。 このような場が今後さらに必要となってくると思う。先駆けとなってさらに進めてほしい。 負担に感じないで楽しく参加できた。 障害のある人とお話しできる機会があってよいと思う。 障害のある人たちが、各行事や仕事に取り組んでいることに感銘を受けました。 	<p>(当事者)</p> <ul style="list-style-type: none"> もっと多くても良い。 木曜日に用事があるから、1ヶ月に2回ぐらいが良い。 <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部の人にしか知られていないと思う。 1日だと長い。 <p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 午前か午後どちらかだと良い。 フェイスブックなどで情報が得られた。 今まで経験したことのない話や、生活の様子を見せてもらい、自分を見つめ直すきっかけとなり今後の活動にプラスしていきたい。 	<p>(当事者)</p> <ul style="list-style-type: none"> お互いのことがわかったと思う。 <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> こぐまサロンでいろんなことがわかって勉強になりました。これからはいろいろ教えてください。 地域の人が講師となって、話をしてもらって良かったと思います。これからはいろいろな人の話を聞けたらいいと思いました。 <p>(一般)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山元町障害者計画が進むことにつながってほしい。 障害者が学びたいときに相談できる場が必要と思う。 継続して実施してほしい。 今回初めて参加しましたが、この1回だけでも、障害のある人や保護者のつながりがとても良く感じられ参加してよかったです。 立場を超え皆が連携してより良いものに作り上げていくことが必要かつ大切だと思う。今後も進めてほしい。
実施関係者	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員の参加もあり良かった。 人から人へ広がり、町の人たちに伝えることを期待したい。 新しいことをやる負担感がある一方で、それが持続可能になるように折り合いをつけていくこと。そしてそこに「楽しさ」が結びつくように。 障害者の方の学習の場ですが教わることがたくさんある。 「共に学べる」ことの意義については、「理解できたか」で計るといっただけの価値感からもっと広げていきたい。 パンフレットを見て、「これに参加したい!」という地域住民の声をたくさん聞いた。 どの町にも学習の場と楽しむ場が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 素敵なパンフレットだった。 みんなが集まりやすい場所だと思う。 参加しやすかったが、せつかくの勉強なので、スタッフ全員が参加できるともっと良いと思った。 次年度は何回かに分けて実施していくと参加者も実施者にも良いのではと思う。 午前・午後と集中して参加する一方、体力がないので疲れてしまった人もいた。次年度は半日にした方が参加者も実施者も負担がないと思う。 障害のある人にも分かりやすくする方法をとっていたと思います。 それぞれに違いがあることは理解した上で、何をもちて成果とするかを共有していきたい。 特に講師や町民など、当事者と接点がこれまでなかった方々にとっての効果があったと思う。もっと知っていただきたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の当事者をもっと参加できるようになっていったらよいと思う。 山元町の新たな生涯学習のプログラムになっていくことを期待したい。 興味のある人に伝わって、新たな学びの場となるように地道にひろめていきたい。 参加する人全てが1つの場になっていたことが素晴らしいと思う。 司会を担当した当事者にとって、自己肯定感アップの効果は大きかった。 学ぶことを知る機会になったのではないかなと思う。 自分の考えを表現できていたり、紙に書くことができていた。 講師の方もとてもフレンドリーに対応してくださり、皆さん聞きやすかったと思う。 相談支援や就労支援のスタッフが地域づくりを自然学ぶ機会となったと思う。

こぐまサロンが生んだ価値

その1. 当事者性を探求する

当事者が役割を持って 運営に参加することで 学びの楽しさを創る



「インドのお兄さんと話そう」の様子



受付を担当

「質問が毎回山ほど出てくるってすごい！」
(講師より)

山元コワマサロンではじゅうぶん勉強になりそのたびたびのテーマが楽しみでなりました。たまきさんと水野さん2人のとうじょうも見どころがより楽しかったです。しかい色した時は初めきんちゃんしました練習などもしていたので思っていた以上に上手にできました。動画をつえいの時も自分のすべをさすけだしていたので思っていた以上に上手にできました。

ポラリス
桜井敏行さん



司会を担当



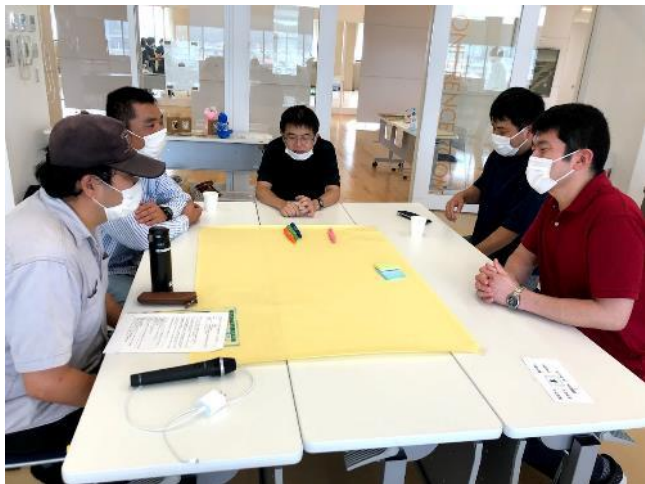
自分の体験を話す



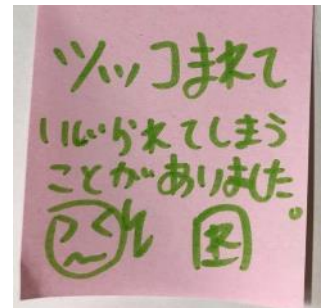
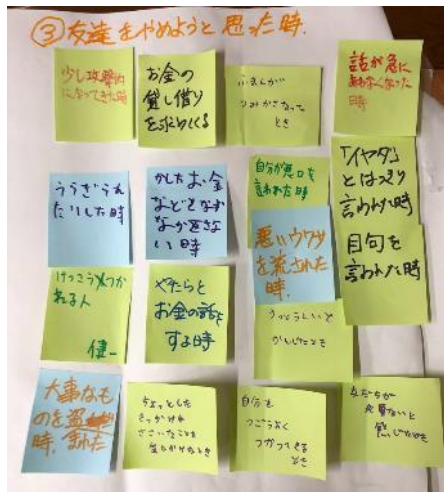
ハーブ園の手入れ

こぐまサロンが生んだ価値

その2. 学びのレディネスを育む



当事者×相談支援専門員 互いに学び合う



自分の考えをふせんに書く
グループで話し合う
発表する



学びたいテーマを自分たちで話し合っ決めて、講師に質問を考えたり、大切なことはメモを取ったり、自分の意見を書いたり発表したり。

これらの実践を通して、当事者には学ぶための心とからだの準備が整ってきたと感じられました。

ICT 映像等新たなツールの活用

スマートフォン、
タブレットを使って

- ・撮影や編集について
たのしく学ぼう。
- ・成果報告会で発表しよう。



- ・動画コンテンツは学び手に分かりやすく、教材としての普及の可能性も。
- ・終了後のダイジェスト動画は広報など今後のサロン活動の普及にも更に活用したいです。

こぐまサロンが生んだ価値

その3. 学びの場と協力者を増やす

障害者の生涯学習の場として、町の社会教育施設を活用しています。サロンスタート当初の目的だった「公共施設を気軽に使える」という環境づくりの整備につながっています。



(会場) 山元町防災拠点・山下地域交流センター
(つばめの杜ひだまりホール)



様々な立場の
皆さんと
つながることが
できました。



昨年の12月に開催された「こぐまサロン」に、大学生として参加させていただきました。障害を持つ方、地域に住む方、学生、ゲストスピーカーとして来てくださる方が、一緒になって学び、感じ、挑戦する場でした。それぞれが繋がりが合うことのできる貴重な時間であると感じています。今後も参加したいと考えています。

東北福祉大学2年
山蔦陽平さん

今年度の保護者カフェは、ポラリスの保護者のほかに、他事業所に通所している保護者や、傾聴ボランティア、民生委員の皆さんにも参加していただきながら、規模を大きくしての開催となりました。私自身としても地域の人に名前や顔を覚えてもらい、繋がることのできたことがとても大きな成果でした。また、相談業務だけでは聞くことができない、保護者の気持ちを聞くことができ学びに繋がりました。森先生から意見の中で、とにかく話を聞くことが大切、話を聞いて貰えるといきえるエネルギーがわいてくるはず。答えがわからない、結論が出ない、だけどこの場でそれぞれの思いを表出することが大切で、いつかどこかの場面で点と点が繋がる瞬間があるはず。というアドバイスを心にとめながら相談支援専門員として、また皆さんに関わらせて頂ければと思います。

やすらぎ 相談支援専門員 遠藤ひとみさん



毎月の開催日を楽しみにしていました。午前テーマはメンバーさんを中心に、スタッフ、講師の方々、参加者にとってわかりやすくまた研修に参加したいという気持ちにさせたいと思います。特にメンバーさん達の生き生きとした発表の仕方等々。午後の保護者カフェでは保護者自らプログラムの一部を担い楽しく話し合える場を作ってくれたこと。私は傾聴ボランティアを担う立場として悩み事や、愚痴をこぼしたくなった時など、気軽に話ができる場面作り努力したいと思っています。

やまもと傾聴ボランティアの会 副会長 北島すず子さん



「異性とのお付き合いのこと」というプログラムに参加し、その中で擬似合コンをした際に、初めて会った参加者の皆さまとすぐに打ち解けることができ非常に楽しかったことを覚えています。また、「ジェンダー平等ご夫妻」からお話をお伺いする時、積極的に質問したりメモを取ったりする参加者の皆さまの姿を見て、このような生涯学習の機会や環境がもっと広まって欲しいなと思いました！この度は貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

東北福祉大学4年生 佐藤 彩音さん

こぐまサロンが生んだ価値

その4. ユニバーサルな学びを創る

誰にとってもわかりやすい学びの場をつくることに取り組みました。



プログラム1. 「町の人と学ぼう」

「山元こぐまサロンの」パンフレットを拝見したとき、まさに「今」問題になっている課題や関心のある内容にすごく興味が沸きました。一方的な講義ではなく、グループワークで話し合ったことを発表する、質問するなど、自分の気持ちを確認しながら進めており、分かりやすく工夫されていると感じました。

一つ一つが心に染みる内容で、知らないことも深く知ることができました。参加者の皆様と、グループワークで話し合うことで勝手に顔見知りになったと思っています。どこかで会った時「ひさしぶり〜」と声をかけ合えるといいなあと思っています。さらに、このような交流を通じて輪が広がることを願っています。

山元町浅生原区 民生委員 菊地澄子さん

どうして男女格差が起きるのか
考えてみましょう？



第五福竜丸事件とは

1954年3月1日早朝、マーシャル諸島のビキニ環礁にて、静岡県焼津市のマグロ漁船「第五福竜丸」乗組員23名が、アメリカの水爆実験に遭遇し、「死の灰」を浴び、被爆した事件。



木造船 長さ 28.5m
幅 5.9m

質問3 仙台藩での活躍

15代 (大條道直) 伊達家の跡継ぎの血筋を守るために、江戸幕府に談判して認めさせた → **こほうび「茶室」**

17代 (大條孫三郎/伊達宗亮) 幕末と明治初期に活躍 (戊辰戦争と後始末)
1. 仙台藩主 (伊達慶邦) の江戸、京都行きに常に同行
2. 朝廷に建白書 (会津藩討伐命令に疑問) 提出の役目。蒸気船「宮城丸」で京都へ
3. 新政府に降伏後、藩主と共に上京。伊達家に寛大な措置を蒙り、仙台藩伊達家の家名存続 → **こほうび「伊達」姓**

【教える人】

役場の福祉担当者
おまわりさん
イチゴを栽培しているインドの人
ハーブ栽培の先生
スーパーの人事担当者
町の歴史を知っている人
歴史ある合唱サークル
当事者

【学ぶ人】

当事者 保護者
地域の人 こども
教員 大学生
相談支援専門員
就労Bスタッフ
民生委員
講師になった人



このサロンを通して、感じたことは、障害のある方の生涯学習 (学べる) 機会の確保の重要性です。いくら学べる意欲があっても機会 (場) が無ければ実現できません。そのきっかけを、障害のある方たちが学びたいテーマにそって、地域で活躍している方たちを講師として開催することができていたと思います

やすらぎ 小泉大輔さん



こぐまサロンが生んだ価値

その5. 家族の変容を伴走する

保護者同士が交流を通して互いに相談し合える場をつくりました。



傾聴



身体を動かす



歌を歌う

保護者・相談支援専門員、傾聴ボランティア・民生委員
～交流と対話の時間～ みんなで同じ目線で考え合いました。



皆の悩みを聞くと、心配していることはみな同じと感じました。

様々な考えかたを吸収したいと思います。



「合理的配慮とは、自分も相手も“一緒に考える”こと」



大変充実して楽しかったです。よくしゃべってしまいました。

悩みを聞いてもらい、いろいろな考え方があったと思いました。

初めてで緊張したが、1回目にしていろんな意見など、勉強になる”気づきができそうと確信が持てました。

歌をうたったりして楽しかったです。

配慮を求めて相談するにも、勇気がある。経緯全てを話さなくてはならないのはつらい

これからも自分に足りなかったこと、知ることができると思いました。

月一回、保護者の皆さんと会うとホッとします。

少人数で話ができよかったです。

参加者アンケートより

(1年を振り返って)今までと職場の往復で相談する相手が誰もいなかったの、この場で一方的ですが皆さんに話をたくさん聞いてもらえて、嬉しかったです。



こぐまサロンが生んだ価値

その6. 学び、そして共生社会を共創する

NPO・町・地域が連携して山元町オリジナルの障害者の生涯学習プログラムの共創を進めています

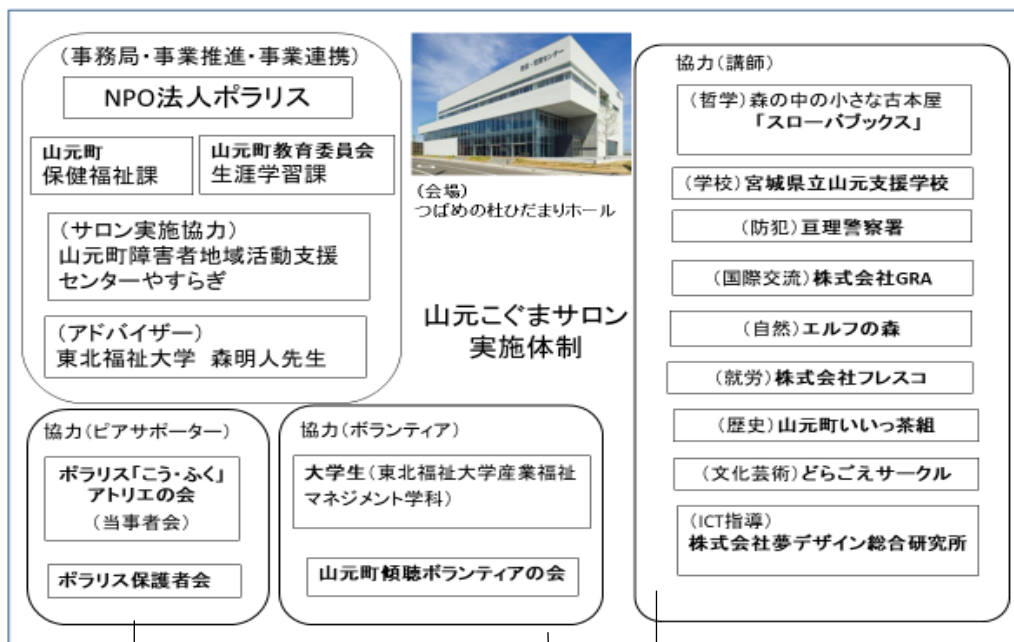


民間・NPOと行政がそれぞれの強みを生かして連携を強化しよう

町の教育や福祉の計画に「障害者の生涯学習」を位置づけて地域の様々な場面で学ぶ権利を保障することにつながるように

福祉×教育で生涯学習体制整備と障害者のエンパワメントを目指そう

町の社会教育施設を活用した生涯学習活動を定着できるように



障害者の社会参加&活躍する場をつくろう

障害者の生涯学習を担う人を増やそう



障害者理解、そして障害のある人もない人も対等に学び生きる環境を作ろう



連携協議会 & ワーキンググループ

《連携協議会》

佐山学	山元町教育委員会生涯学習課 課長
伊藤和重	山元町保健福祉課 課長
森明人	東北福祉大学 准教授
菅原正弘	宮城県立山元支援学校 進路指導部
田所信幸	株式会社夢デザイン総合研究所
橋元洋平	農業生産法人株式会社GRA
森光子	どらごえサークル
萱場裕子	どらごえサークル
あむ	ポラリス「こう・ふく」アトリエの会
加納てる子	ポラリス保護者会
小泉大輔	山元町障害者地域活動支援センターやすらぎ
田口ひろみ	特定非営利活動法人ポラリス

《ワーキンググループ》

三浦彰文	山元町教育委員会生涯学習課
鈴木聡	山元町保健福祉課
遠藤ひとみ	山元町障害者地域活動支援センターやすらぎ
但馬英治	山元町障害者地域活動支援センターやすらぎ
品堀学	特定非営利活動法人ポラリス
佐藤路代	特定非営利活動法人ポラリス
引地奈美	相談支援室ポラリス

コーディネーター 田口ひろみ

NPO法人ポラリス代表理事
精神保健福祉士 社会教育士

“学び続けることができるまち”そして、しなやかでやさしい、文化のあるまちをつくりましょう！



アドバイザー 森明人先生



山元では是非、障害者の学びの場の創造を通して、この場をプラットフォームに、福祉施策に一石を投じて行って欲しい。当事者の生きる力も伸ばして欲しい。

東北福祉大学 准教授<研究分野> 社会福祉学
<研究内容のキーワード>
地方自治体の福祉政策、地域福祉行政、社会起業

一日一日を忙しさにかまけてあるいは何となく過ごして、学ぶことの大切さを少し忘れてしまうことがあります。そんな中で、楽しいけど考えを深めることができた、コロナ禍を縫うように開催頂いて集うことの喜びを再確認させて頂いた、そんな内容でした。

ポラリス あむ さん



障害者がICTを活用することは、健常者よりも役に立つのかも。きらり輝くものを世に発信していくには、ICTは最善のツールではと感じている。現在、撮影した動画を編集しているが、名場面がたくさんあります。お宝ぎっしりのプログラムになったのでは。動画は今後、削ぎ落としが必要になるが、その中で今後のプログラムづくりにも活かしていけるのでは

夢デザイン総合研究所 田所信幸さん

同じテーマをみなで同じ場所で学べたことがよかったな。当事者がわたしたちと同じように感じる心をもっていることに感動。学びの場を原点として、町中に広げ、お互いに街中で声を掛け合える関係ができれば。個人的には、戦争体験（仙台空襲）について参加者にフラッシュバックさせてしまったこともあったのではと後悔。一方で、その気持ちも参加者同士で共有できたのではとも思う。

どらごえサークル 萱場裕子さん



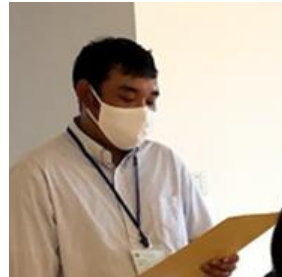


「みんなはどうしてる？」について皆の本音を聞くことができた。個々の問題ではあるが、お互いの意見を聞けたことでホッとしたりしたのでは？
(山元支援学校 菅原先生)



楽しく分かりやすく。当事者も入って学べた。保護者カフェは、噛み砕いて分かりやすく話していただいた。一番大切なのは相談すること。そして聞く耳をもつこと。
(保護者 加納てる子さん)

皆と楽しく交流できて良かった。今回の繋がりをきっかけに、もっと交流したい。ポラリスにも、もっと気軽に遊びにいききたいな。
(GRA 橋元洋平さん)



山元町保健福祉課
鈴木聡さん



山元町生涯学習課
三浦彰文さん

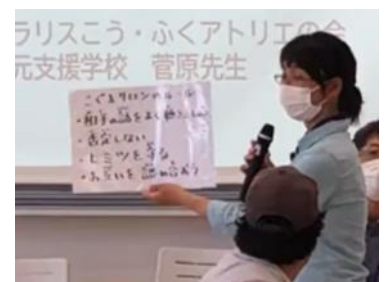
利用者の学が姿など、いろんな場面や表情を見せていただいた。相談業務だけでは知り得ない、地域の方と接する機会、実情を学ぶ機会になった。他の事業所と協働することで、連携も深まったと思う。
(やすらぎ 小泉大輔さん)



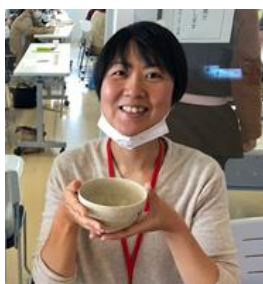
やすらぎ
但馬英治さん



当事者にとっていろんな職業の方と触れ合う、話を聞く機会となった。ライフストーリーを聞いて、他の方のお話も出てくる、影響を与えていることを体感させられた。
(みんな) スライドをガン見する様子を見て、どんな理解力であっても、自分を高めたい欲求があるのだということを実感した。
(ポラリス理事 佐藤路代)



地域の方に入っただくことで相互理解につながった。
(ポラリス理事 品堀学)



講師、参加者、そして企画運営側、そのどれもに、ポラリス外の地域の方々が加わって、一緒に作っていくことができたということが一番の喜びです。本当はもっとたくさんの地域の方々に、このサロンを一緒に楽しんでいただきたいという気持ちがあるけれど...欲張らず、地道に、そして私自身が楽しむということを忘れずに、これからも皆さんと継続していけたらと思います。
(サロン事務局 ポラリス 引地奈美)



やすらぎ
遠藤ひとみさん

目指すは、 共に学び合える地域づくり

今年度、こぐまサロンに関わらせて頂き、この実践が「山元町共生社会づくり」に確かに向かっていることを強く実感させて頂きました。私自身も、本プログラムへ参加したことで、参加者の学習活動や地域づくりにつながる視点を改めて学ぶことができました。また、参加を重ねるごとに、学び方や楽しみ方が変化することを実感し、その場のもつエネルギーに自分自身も触発されるような経験をすることができました。学習者、スタッフ・関係者の皆さんはもちろんのこと、地域の皆さんも回を追うごとに増えて行った印象さえあります。

1. 「相互に学び合う場」づくりから「地域づくり」へ

プログラムは、誰もが楽しく学ぶことができるよう設計されており、生活・人生に密着した内容を学ぶことができる工夫がされています。教室の様子、皆さんの表情から、楽しんでいる様子が、伝わってくる企画でした。新たな障害福祉のイメージを地域に溶け込ませるような様々な工夫もありました。隅々まで行き届いたデザイン性、会場をはじめ皆さん一人ひとりが前向きなエネルギーを発し、参加のモチベーションを高めてくれます。こぐまサロンに編み込まれているポラリスの実践から生まれたであろう多くの革新的なアイデアと仕組みが、これまでにない「地域のつながり」を生みだし、新たな「地域づくり」にもつながっていく可能性を感じることができました。

2. 協働学習の形成とプログラム開発

プログラムでは、ICTをうまく使いながら記録化・映像化を丁寧に行っており、この取り組みを知って頂きたい多くの人に、届けることができる内容づくりになっています。場の普及には、本プログラムの企画性や訴求力も必要ですが、地域にある「共に学ぶ場」の存在を知ってもらう工夫が必要です。多くの人に関心をもってもらうための工夫が施されており、また、それぞれの興味でプログラムに参加して頂くことで、実践家・参加者の様々な声を反映させるアイデアが盛り込まれています。本プログラムが、ともに創り上げていくことに価値をおく実践づくりであることを実感しました。

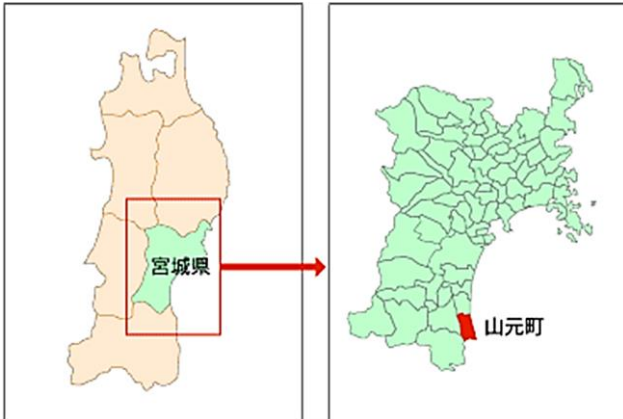
3. 障害者の生涯学習の実践を通じた地域変革への挑戦

ポラリスの実践基盤は、制度福祉にあると考えますが、生涯学習活動を始めとした多様な社会参加の試みに挑戦していることは、地域変革につながるエネルギーにつながっていくのではないのでしょうか。本プログラムの挑戦が、様々な人を巻き込み、地域の関係性の力学を変えることにつながると考えます。いまや、「地域共生社会」は、あらゆる分野の共通言語になり、様々な施策や事業が行われるようになりましたが、「地域づくり」とは何から始めればよいのか、自治体を含めて、地域はどうやって地域づくりをおこなってよいかわからない現状ではないのでしょうか。「どんな取り組みで、地域づくりをするのか」、ポラリスの実践が、その1つの答えを示してくれるのだと確信しています。

山元こぐまサロン アドバイザー
東北福祉大学 准教授 森明人



2011年3月～ 東日本大震災後の宮城県山元町での 障害者支援のあしあと



当団体が活動している宮城県山元町は、宮城県の沿岸部の最南端に位置しています。イチゴやリンゴ、ホッキ貝が特産品の、震災前は「東北の湘南」と呼ばれていた町です。

東日本大震災では、私たちの町も大きな被害を受けました。人口は16000人から12000人に減少しました。町の特産だったいちごのハウスはほぼ全滅してしまいました。JRの二つの駅も、壊滅状態でした。町内で680人が犠牲となり、町民の約半数は何らかの形で津波の被害を受けました。



大津波で、山元の特産いちごのハウスが全滅



JR常磐線の2つの駅が壊滅

震災前から障害者支援を担ってきた私は、山元町社会福祉協議会の障害者支援の担当者で、精神保健福祉士としての業務につき、避難所を巡回しながら、心のケアが必要な方々を見守っていました。

町内には精神科がないため、診察を要する方を自衛隊医療チームの救護車に乗せてもらって、車で45分ほどかかる名取市の県立精神医療センターに引率したり、避難所である公民館に、障害者のサロンをつくりながら、5月の連休明けには、当時私が施設長をしていた障害者の授産施設「工房地球村」の活動を再開しました。そこから、全国の様々な協力者と、「工房地球村」の立て直しをスタートしました。

2011年夏～2014年 アートによる生きる力の取り戻し

2011年8月～

いちごものがたりプロジェクト

タイヨウプロジェクト

いちごに復興への思いを託したプロジェクト



奈良や福岡からアートスタッフが応援に来て、初めてアートワークショップを体験。

町の特産「イチゴ、リンゴを描こう！」

2011年夏、「タイヨウプロジェクト」と出会いました。「タイヨウプロジェクト」は、奈良市にある一般財団法人たんぼぼの家が事務局となり、全国の障害のあるアーティストたちが自分たちのアート作品の売り上げを資金に、被災地の障害者の仕事の復興を応援するプロジェクトでした。そこで私は、彼らの「自分のできること、例えばアートなどの表現活動で、誰かを助けられたら。」という想いを目の当たりにしました。当時の山元町には、当事者にこのような力がまだ育まれていなかったのが驚き、そして感動の気持ちでいっぱいになりました。

このタイヨウプロジェクトで、障害のある人たちの仕事の復興と町のイチゴの復興を応援する「いちごものがたりプロジェクト」を企画実施することができました。この時、工房地球村の利用者が、初めてアートワークショップを体験しました。町の特産であり、みんなが大好きないちごやリンゴの絵を描いて、そのイラストをもとに、アートスタッフやデザイナーの力を借りて、手ぬぐいやお菓子のパッケージなどを商品化しました。

自分の絵が、全国に「山元町のいちごの復興を応援すること」に使われて本人も家族も大喜びでした。被災をして、笑顔を忘れた利用者や保護者に、少しずつ笑顔が戻ってきました。

さらに、一般財団法人たんぽぽの家をはじめとする全国の支援者・団体等の応援で、翌年には障害者の働く場でもあり、地域のコミュニティの場ともなる「カフェ地球村」をオープンしました。

その後、カフェ地球村を訪れる人たちと「障害福祉や地域課題」や「地域おこしの取り組み」を学び合う場にもなっていました。町の再生には、自分たちが主体的に学び、互いに知恵や力を出し合っていくことが重要であり、震災で最もマイノリティな立場にあると感じた障害者の支援を進めるには、障害福祉と同時にそういった「地域づくり」を進めていくことの大切さを学びました。



カフェ地球村
オープン

従来より町内で福祉を担っていた社会福祉協議会に加え、被災したこの地域の中でマイノリティーな立場にあると感じる「障害のある人」の支援にフォーカスするポジションが必要と痛感し、当時のスタッフたちとも考え、その結論として私は、「障害のある人のエンパワメント」と「地域づくり」を活動の柱としたNPO法人ポラリスを町内に新たに立ち上げました。



2015年 ポラリス設立

ポラリスは、「障害のある人もない人も、ともに素敵に生きて、はたらく」のテーマのもと活動しています。ポラリスの自主事業である「ポラリス(就労継続支援B型事業所)」は2015年8月に開所し、地域をフィールドに、障害のある人たちの働く支援のほかに、楽しむ、学ぶことも取り組み「素敵に生きてはたらく」ことを目指す活動をスタートしました。

2016年～2017年 「山元を元気にするプロジェクト」

2016年から2017年は「山元を元気にするプロジェクト」に取り組みました。まずは、ポラリスの近くの民家をお借りして、2016年9月にポラリス「こう・ふく」アトリエを整備しました。アトリエは利用者にとって、絵を描いたり、刺しゅうをしたり、自由に創作をする場であり、こころのケアの場所でもあります。



アトリエ活動

その頃町内はハードの復興が少しずつ進んできました。新市街地にはJRの駅とスーパーがもうすぐ完成するという時期で、みんな楽しみにしていました。ポラリスの活動に共感してくださったスーパーの社長が「障害者のアートで町を元気にしよう」とスーパーの壁画制作の仕事をプレゼントしてくれました。「山元が元気になるアート」というテーマで、高さ2m、幅33mの壁画を作ることになりました。

京都から壁画デザインの応援に来てくださったデザイナー福井恵子さんは、「私たちの心が震災の時で止まっている」「震災前、山元町はとても良い町だったはず。」と、私たちに語りかけてくれました。そこにヒントを得て、この壁画では、山元の歴史・民俗・文化・自然などの町の魅力について、古代から現代、そして未来までを表現することにしました。東北の「キリコ」の技法を取り入れて、地域の人たち(14団体・53人)の手により生まれたキリコ143点をもとに、JR山下駅とスーパーマーケットがもうすぐ再建となる2016年10月23日、フレスコキクチ山下駅前店壁画「Happyやまのもと」が完成しました。



壁画「Happyやまのもと」

2017年は、「山元の魅力を発見するプロジェクト～学ぼう、山元のすごい歴史。」に取り組みました。壁画にも表現した山元の歴史、民俗、文化、自然に触れる対話と学びの場を、障害のある人たちが町の人と一緒に作り上げました。この時、地域の人たちと共に学び合うことで、障害のある人の可能性や多様性を知ってもらうことができる、そして町の魅力を再確認しながら、文化ある町の復興につながると感じました。その学びの成果となる冊子「山元ものがたり」を制作することができました。



冊子「山元ものがたり」

2018年 生涯学習によるソーシャルワークと 「山元こぐまサロン」のはじまり

2018年、JR山下駅の隣に町の防災・交流センター「ひだまりホール」が建ちました。新市街地に防災とコミュニティの再生のために建てられたこの施設は、今後また災害があったときに、障害のある人やその家族が遠慮なく使えるように、この施設を定期的に利用し使い慣れていく活動をしよう、という目的で、会場を借りて、障害のある人もない人も「集う・学び合う・相談する」場づくりを始めました。



ひだまりホールでの
ミュージカルワークショップ

2019年は、山元町の障害者地域協議会の取り組みとして町から会場提供を受け、ポラリスが試行的に「山元こぐまサロン」を開催しました。その成果が認められ、2020年には山元町障害者地域生活支援体制事業を受託し、事業の一つ「サロン活動」として企画開催しました。



「令和2年度山元こぐまサロン」チラシ



©齋藤秀美

※「山元こぐまサロン」の名前の由来

当団体名「ポラリス」は「こぐま座」の中の星であることから、ほっこり柔らかな「こぐまサロン」という名前を付け、「こぐま」のアートを用いてチラシを作成しました。

ちょうどその頃、文部科学省が「学校卒業後の障害者の生涯学習」を普及する実践研究を進めており、実践を行う団体を公募するということを知りました。これまでポラリスが取り組んできた「学びの活動」はまさにこれに合致するものだったので、町の教育と福祉、それぞれの課に相談し、町と連携できることになり、この文科省の助成事業に応募し採択され、2021年、本事業を実践することができました。

おわりに

「山元こぐまサロン」をスタートして3年が経ち、今年度は文部科学省の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」として、山元町の応援をいただきながらチャレンジさせていただきました。「山元町らしさ」を大切に、これまでポラリスが取り組んできた地域の様々な立場の方々との「対話と学びの場」づくりの経験を財産に、障害のある人もない人も共に学び合う場づくりを実践することができました。コーディネートを担当させていただき、やっぱり山元町って優しい、面白い！と再確認。

「障害者の生涯学習」の意義について皆さんと共有したいと考え、今回の企画は、この成果報告書にもあるように、ちょっと欲張って詰め込みすぎになってしまった感があります。参加した人たちは、集中しすぎ&楽しみすぎた感があります。今年の経験を糧に、きつと来年度は、当事者が主体的に自分たちがやってみたい学びの時間を自分たちのペースで創れるのでは、と期待しています。関わってくださった全ての皆様に心より感謝を申し上げます。

山元こぐまサロン コーディネーター
特定非営利活動法人ポラリス 代表理事 田口ひろみ



特定非営利活動法人ポラリス

私達は東日本大震災で被災した宮城県山元町で、「障害があっても、素敵に生き、はたらくことができる地域づくり」を目指して活動しています。

東日本大震災の被災を経験し学んだことは、地域の課題を誰もが自分ごとに考え社会参加することの大切さです。農福連携などの就労訓練とアトリエでの創作活動をもとに、地域全体をフィールドにして、町の魅力を紹介する壁画「Happyやまのもと」制作や、公的な場所に「アートな奇植え」を設置したり、誰もが楽しく学べるサロンを開催するなど、障害について自然に理解を広げてもらうことができる活動や交流の場を作っています。

障害者が「はたらく・楽しむ・学ぶ」を通して、自己肯定感や自己有用感を高め、周囲から助けられるだけの存在でなく、地域の人達と支え合うことができる共生社会を目指しています。



文部科学省

令和3年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究

地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進

山元こぐまサロンを活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト

成果報告書

発行日 2022年3月1日

発行者 特定非営利活動法人ポラリス

代表理事 田口ひろみ

住 所 〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原72-64

E-mail koguma@polaris-yamamoto.com

ホームページ <http://polaris-yamamoto.com>



実 施 山元町 特定非営利活動法人ポラリス

協 力 山元町障害者地域活動支援センターやすらぎ

ポラリス「こう・ふく」アトリエの会

ポラリス保護者会

宮城県立山元支援学校

東北福祉大学

亶理警察署

㈱GRA

エルフの森

フレスコ㈱

山元いっ茶組

どらごえサークル

森の中の小さな古本屋「スローバックス」

㈱夢デザイン総合研究所

山元町傾聴ボランティア

編 集 特定非営利活動法人ポラリス